第柒拾捌冊

八之上

萬葉集巻第八

春雜歌

懽御歌一首 志貴皇子

石激 垂見之上 左和良妣乃
いそのうへの 亦來鴨
あしびの 毛要 春
はなりにけるかも

一首 鏡王女

神奈備乃 伊波瀬乃社 喚子鳥
みもろの いはせのもりの よぶことり
痛 莫鳴 吾戀益
いたくなきそと わがこひまさる

一首 駿河采女

沫雪香 薄大礼 亦零登見 左右二
あわゆきか うすだれなどか ふるとみる まで
流倍 散波何物 之 袁 其毛
ながらへば ちるいかものぞ はなにそも

二首 尾張連 (ムラジ) 關名 (カカノ)

春山之 開者散乃 平爲黒 亦 春菜採
はるやまの さきはちりぬの ひらをすく 亦
妹之 白紐見 九 四 與四門
いもしろの しらひもみえて いもとりし
打靡 春來 山際乃
うちなびく はるきたるらし やまのあひの

春雜歌 懽乃歌 亦
のうたまた
おくりつもり

いそのくさきの
彼曰 激 垂見之上 左和良妣乃
そこひ 激 たるみのうへの あしびの
也 神物云 毛要 春
はなりにけるかも かみものから もよ 亦 來 鴨
うつのたの 巌と 指柄
うつたの いはほと さしつかに
と指磨 之 如
とさしみがく ごとく
手 取持而 懽 賀 見 者
てにとりもちて よろこび かみれば
無 火 左 燎 乃 神 之 如 所 念 而
なき ひだり もゆる かみの ごとく おもほえて
久礼 居 而 雖 戀 相 依 無 者
くれゐて こふれども あふよし なければ
吾 衣 袖 乎 持 上 而 嘆 友 尓
わが ころも そで を もちあげて なげく とも
曾 能 人 乃 子 等 尓 波 不 所 見 而
その ひと の こら に は みえずて
久 夜 左 良 久 夜 乎 重 ね 而 所 思 者
くやさらくやを かさねて おもへば
天 之 河 安 川 波 毛 無 者 度 武 為 乃
あまの かは やすかは も なければ わたむ すべの
多 豆 伎 乎 白 栲 乃 袖 振 交 而 我 待
たづきを しろたへの そで ふりかはして わが まつ
君 者 夕 衣 朝 川 渡 而 立 霧 乃
きみは ゆふごろも あさかは わたりて たつきりの
思 過 倍 吉 物 乎 嘆 友 尓
おもひ すぐべき ものを なげく とも
曾 能 人 乃 子 等 尓 波 不 所 見 而
その ひと の こら に は みえずて

なみたのごひの
八雲立 神之御代乃 乎 雲 神 之 事 乃
八雲立 神の御代の 雲 神 の 事 の
乃 森 大 和 之 青 垣 之 山 乃 内 尓
の もり やまと の あをかき の やま の うち に
こもりくの 泊瀬 之 山 乃 山 之 際 尓
こもりくの はつせ の やま の やま の あひ に
伊 隠 萬 代 尓 有 通 倍 吉 雲 乃
いこもり よろづよ に ありかよふ べき くも の
立 居 乃 思 乃 限 乎 隠 賜 布 可
たちゐ の おもひ の かぎり を かくしたまふ か
雲 乃 情 無 雲 尓 有 牟 乎
くも の こころ なき くも に あらむ を
雨 霧 物 云 者 乃 雨 霧 物 乎
あまぎらし ものいは の あまぎらし ものを
情 無 雲 乃 隠 布 倍 吉 乃 雲 乃
こころなき くも の かくふ べき の くも の
隠 障 雖 有 月 乃 光 乎 見 欲 寸 乃
かくらへ あれども つき の ひかり を みまく ほし き の
吾 情 可 聞
わが こころ かも

一首 駿河采女

沫雪香 薄大礼 亦零登見 左右二
あわゆきか うすだれなどか ふるとみる まで
流倍 散波何物 之 袁 其毛
ながらへば ちるいかものぞ はなにそも

二首 尾張連 (ムラジ) 關名 (カカノ)

春山之 開者散乃 平爲黒 亦 春菜採
はるやまの さきはちりぬの ひらをすく 亦
妹之 白紐見 九 四 與四門
いもしろの しらひもみえて いもとりし
打靡 春來 山際乃
うちなびく はるきたるらし やまのあひの

山乃せきれおるう　遠　未来乃開往
乃燒野ようの草摘

神楽歌云くろこいろ乃赤もゝ〳〵万葉抄云さき乃やまふかいふ乃乃〳〵今云春山乃開とりあつめていふ也

すくろいすこ〳〵赤乃さき草とりあつめ萩とも落ちもいそ〳〵只すくろたこ斗いふ也

さの子供〳〵それ宝もの只それとひいされとよ

万葉抄云　玉乗抄云　万葉集　春山乃せきれをすくろきふくしめる花乃雪ふりくるこゝちするとよめれいせきのと云

とも〳〵こゝひ開乃字のふくもせさこさきとみ当通〳〵

それいせきとよめ〳〵一本に関をかを用ふ也ちかくはちかひさまいやふくふの咲ゆをそれいすれおのおくさふくと

こう乃まこいてう

一首

中納言阿倍廣庭卿

去年ゝ春伊許自而殖之吾屋外之

こう乃まこいてう〳〵わくやうの

小いみ〳〵こと和せ

ア年春乃二字をそうことよむ〳〵きふや伊許自而をもねうことをいふ心

仙口にこてとい〳〵

語の別こてとい〳〵

こうこねうこてとい〳〵

玉乗日本紀二掘ますて

春のくにすれ〳〵

萩口野花乃心

乃ひさ乃山さそ〳〵花

日もすてい番〳〵

いうとめてさ〳〵

ゑるうひいせでこと

わりせこふえせんと

白梅

若樹　梅　者花咲　介家里

わりさ乃うめいふさ〳〵さるく乃

四首

山部宿祢赤人

春　野介須美礼採介等　来師　吾曽

野平奈都可之義　一夜宿二来

のをるふすれつみれこうわれう

足比奇乃山櫻　花　日並而

いさ乃山さそ〳〵いる日もすて

如是　開有者甚　戀　目夜衆

吾弊牟介　念之　梅　花

わりせこよえせんこおりひ〳〵うめのも

其　十方　雪乃零有者

うとこれえともれわれ〳〵

従明日　者　春菜　将採　跡標之野介

あすもわいわりなれゆんとおめ〳〵のふ

昨日毛　今日毛　雪波布利管

きのふもくふも雪ハふりつゝ

草香山歌一首　作者未詳（イ依テ作者微ノ二字ヲ不顯名字ヲ靡）

難波乎遥（忍照）而（打）　打靡（てるかひく）
草香乃山乎（暮晩）（介）　吾越来者（山毛世（介）咲有）　馬酔木乃（不惡）
君乎（何時）　徃而早（将見）　なみをいつしのゆきてはやみん

櫻花歌一首并短歌　（ワカミヤ）若宮（アユ）年魚麻呂

嫦娥等之　顔捕乃　多米来（介）遊　士之
おとめらが　かほとらのため　きたれかの
蔓之　多米来等　敷　座流國乃　波多
かつらのため　きたるとふ　ましきるくにの　はたを
区（介）開　介　雖類　櫻花　能
ひらくに　ものまさるとも　さくらばな　乃

あすよりはわれ
新年今日
入吉野山
領巾振山
らは毎日つゝんこと
ゆるもくふをとふ
みて可忍さはめ
てゆすつゝんこと
さくらふはつゝ
てゝ　お沈
山もせよ山乃なりも
さくらてし乃蹴躓
乃うつゝさをみ
うつゝ（ママ）祖
おこめらくかさの
女子乃かさし男の

つゝふし（ママ）こと
ちまきおせる　右の詠め知
（その勢る頭）
乃そてし（ママ）
神物云ふのそてし地
乃底さをみ
そてし（ママ）
そこいつゝ
ふかいも　こ乃家よ　こと云心こてゝ
ふかいも　こ乃家助字　神中物かい
こう乃まゝ
てゝ桜乃花
てゝ野乃
八重物云てゝ野
物はみ野を云
（仙為すゝ）
居之類聚をゝ

（册穂日波　册安奈何　（疑是）
ふりひてをいくる
あ家

反歌

（春　礼ゝ之　君　尓　逢　介ゝ
こう乃まゝ
（桜　者　遠　（者ゝ之册
さくら乃をゝむ
（百濕　野乃　黄　古枝　介　往春泥
居イ野乃　里　之　（嘗　咲　尓　結跡咲
（仙為すゝ）
居之類聚をゝ

一首　山部宿称赤人

わがせこが
佐保河の
小浪さわき
千鳥鳴く
なり

柳歌二首　大伴坂上郎女

吾背兒我見良年佐保道乃青柳乎
手折而谷裳見絲欲得
折而見都
上佐保河之青柳者
打上乃
今者春部登成介雖類鴨
いまはまへとなりにけるかも

梅歌一首　大伴宿禰三林

霜雪毛未遍者不思介
春日里介梅花見都

山振花歌一首　原見王

河津鳴甘南備河介陰見而
今香開良武山振乃花

梅歌二首　大伴宿禰村上

含有常言之梅我枝今且零四
散雪二相而可開
梅の花
立
春日之里梅
山下風介落許須莫湯目

一首　大伴宿禰駿河麻呂

春日里之奈良
波奈介将向常吾
念奈久介

一首　中臣朝臣武良自

梅乃花よこりんことそ
なりんさり小さひ
のおふさりますとも
ときこい今もふ成ね
ぬことふふるを
もふ成ねとふる
とふ秀句ふいふ
そのあれこまく

春の雨のしたきまの点
やちまくハ頻て降
るとまれいふる雨しの
梢ハ咲ぬらんふも
うちまくに雪ふりり
山寺ハ深くも拾遺ふ
とふかて遠とうち
まくいうち天智

雪ハふれやまくさ
すりふまもの皆咲と
ふふそくふ人のゆけれハ
友ふくとまそれも雅
ハの花一ふまふ独
をそれのて梢茶茶
を儲めるもの

かとそくうの名れり
野上和名ふ美濃ふ級
郡ふこふ安ふも美法
名ふもとふ風雅集ふ
やまふまこ乃咲る

哥乃心ハ雨心
かせやせふ雪ハみれ
雪ハふれやまふねそ
風交ふ雪隈て梅を

春菜採児手見之悲也
わりふハむこそとるりかなりさ

一首

霞立野上乃方介行之可波
かとそくうのりれてこゆきくうハ
鶯鳴都春介成良思
うそりとふまふまふまふまし

一首

高田女王高安女也
振之咲有野邊乃都保須美礼
やまふまこ乃咲るのへれつくすれ
此春之雨介盛奈里鶏利
このまふ乃ふりさりふまふとふ

一首

大伴坂上郎女
風交ふまもせ雪者雖零介
かせやせふ雪ハふれとふ實介
吾ハふふ宅之梅乎花介令落
わきへ乃梅をふりちくすな

時者今春介成跡三雪零
遠山邊介霞多奈婢久
とをきふやまふへふかとそくうみしく

河邊朝臣東人

春雨乃敷布零介高圓
まふの面乃ふまくふくふまふ
山能櫻者何如有良武
やまれさそくくいふあるくん

鷺歌一首 大伴宿禰家持

打霧之雪者零作然爲我二
うちまくふ雪ハみりとふりすふふ
吾宿宅乃苑介鴬鳴賞
わふへ乃そのふうそりとふくふ

一首

大藏少輔丹比屋主真人
難波邊介人之行礼後居而
あふそくうう人乃ゆあれいをそれねそ

春雉歌一首 大伴宿祢家持

春野安倍雉乃妻戀ル歌

ふる雪のさわ雪まして来ん年の
春し来らばいかに我が背子

一首 天平四年三月一日佐保宅作之

大伴坂上郎女

琴常聞者苦寸喚子鳥
音奈都炊時庭成奴礼

春相聞

贈二坂上家一之大嬢歌一首

大伴宿祢家持

吾屋外之蒔乃青麦何時毛
穂庭出而縦延而
花乎咲武名蘇経乍見武

與妹坂上大嬢歌一首

大伴田村家毛大嬢

茅花抜浅茅之原乃都保須美礼
今盛吾戀苦波

一首

大伴宿祢坂上郎女

情具伎物乎胃有鶏類春霞
多奈引時乎戀乃繁者

序奇之恵乃左禮奈礼登

こころもきこゑぬかも　詞林采葉云心もきこえぬかもといふまでに五葉雲雨いはやせきあるゆゑにかくいふ此歌のまへうたもこゝにひの儀なるべし

みつゝうりかもの
鴨の羽の色の
春山乃まやのうぐひす
霞めるろきこと序
ふるよりみてしけり
おかつりあまき心と
春山のこのしたひて露も
さわをこめてとしも
やみもれいう
園りまねいもうう
梅さきこ月もあき
まり出かりそーと
けるはつるるるう
やこも

贈大伴家持歌一首

笠女郎

水鳥之鴨乃羽色乃春山乃
みのうりかもれそいろかるやまの
於保束無毛一可念可南
おかたのもおもほゆるかも

一首

紀女郎

闇夜有者宇倍毛不来座梅花
やみなれはうへもきまさす梅の花
開月夜尓伊而麻左自常屋
さける月夜にいてまさしとや

天平五年癸酉春三月贈入唐使歌一首并短歌

笠朝臣金村

玉手次不忘吋　世　氣永
たまたすきかけねこさるいまのよ
吾念公乎遥隔　年　恐
わかもへるきみをとをさかり
夕去者鴈之喚音聞　雅波可
ゆふされはかりのなくこえきゝ
暁者大鹿小鹿来立　鳴等
あかときはおしかこしかきたちなく
目原乃高圓山尾　雲居尓
めはらの高圓山を雲ゐに
伊別往者留有吾乎　嘆敷
いわかれゆけはとゝまれる吾を
欲見来座公乎　早還来世
みまくほりきますきみを
波之伎余
はしきよ

反歌

波之伎余
はしきよ
奈良乃京師之荒巻惜
ならの京師の荒まくおしも
雨乞乃
あまこひの

贈櫻花娘子歌一首

藤原朝臣廣嗣

此花乃一與社内尓百種乃
言曽隠有於保岐美乃為奠
於曽利須流可母

和歌一首

娘子

此花乃一本尓衆波百種乃
山乎毛乎乃比登母登尓波
言曽登母能未尓波不勝而
雖有奈良妹

贈久米女郎歌一首

原見王

家戸主栂花者毛香矣
妨為不有栂乃花不有者
雖有世人乃見不知香物
可聞

報贈歌一首

久米女郎

世間毛学乎尓有家戸尓有
者栂花乃不所知有目八方

栂花乃不所知香毛
佐久礼知流許呂母

折攀合歡花并茅花贈大伴宿祢家持歌二首

紀女郎

戯奴為之為吾手母須麻尓春野尓
抜流茅花曽御食而肥座
戯奴叱奴

畫者咲　夜者戀　宿　合歡木花
ひるさけばさよるはこひわるねむの木
君　耳　聞　哉　和　氣佐倍尓見　代　類聚
きみのみゝやわけさふらん　よ類聚

古兵を　てまつる　丸和名云楷音皆子フリノキ　合歡木　其葉朝舒暮斂
者也　哥乃心ハひるはさきよるはとぢるといふ意也　合歡木ひるはのひらく
おさふれハ名ハ古兵ハさもありぬへし　仙臣ハ古兵ハ　神中ハ
木花をさもの名ハさふらんや　仙臣ハ古兵ハ　類聚ハ
のことゝみやひらけ　類聚ハ

贈和歌二首　大伴家持

わかやとの　合歡木花乎　見つゝ思ふ　妹之笑顔　思ほゆ
吾屋戸之　芽花乎　雖見　不成　戊
咲而　實乎　見ずもかも　寫

古兵ハ　神中ハ　仙臣ハ　類聚ハ　哥ハ　紀女郎家持

贈坂上大嬢歌一首 従二久迹一京贈二寧楽宅一

大伴宿祢家持

春霞軽引山乃隔者
遠哉妹乎不相而月曽経去来

憂雑歌

一首

藤原夫人

霍公鳥痛莫鳴汝音乎
五月玉乎相貫吾尓

御歌一首

磐瀬乃社之霍公鳥
神名火乃毛無乃岳尓何時来将鳴

御歌一首

弓削皇子

霍公鳥堅魚乎煮時尓来鳴
其鳴音乎聞者辛苦

霍公鳥歌一首

小治田廣瀬王

霍公鳥音聞小野乃秋風
吹尓毛将来鳴与余所尓

霍公鳥歌一首

志貴皇子

足引之山霍公鳥汝鳴者

家有姉常所思
いへりける いもにはねよおもわれゆ

一首

刀理宣令

物部乃石瀬之社乃霍公鳥
もののふのいそせのもりのほととぎす
今毛鳴奴之常影尓
いまもなりぬしのかげにし

一首 山部宿祢赤人

戀之妻屋尓不令居而
こひしけれやどにをらえず
将為跡吾屋戸尓
むすめてわがやどに
殖之藤浪今開尓家里
うえしふぢなみいまさきにけり

一首 神亀五年戊辰太宰帥大伴卿之妻大伴郎女遇レ病長逝
悪千時勅使式部大輔石上堅魚遣太宰府弔レ喪并賜レ物之也
其事既畢驛使及府諸卿大夫等共登二記夷城一而望レ遊之日乃作二此歌一

式部大輔石上堅魚朝臣

霍公鳥 來鳴 令響 守乃花能
ほととぎす きなきとよもす さつきやの はなのみまもる
共也 來之登聞 麻思物乎
ともにやこむと まちしものを

和歌一首 太宰帥大伴卿 旅人歟

橘之花 散 里乃 霍公鳥
たちばなの はなちるさとの ほととぎす
片戀為 鴨 日四曽多須
かたこひしつつ かもひよそたす

思二筑紫大城山一歌一首

大伴坂上郎女

今毛可聞 大城乃山尓 霍公鳥
いまもかも おほきのやまに ほととぎす
鳴 令響 吾 無礼 将有毛
なき とよもす われ なからむ

霍公鳥歌一首　大伴坂上郎女

何奇毛幾許乞恋流霍公鳥
鳴音聞者戀許増益礼

一首　小治田朝臣廣耳

獨居而物念夕尓霍公鳥
従此間鳴渡心四有良思

霍公鳥歌一首　大伴家持

宇能花毛未開者霍公鳥
佐保乃山邊来鳴令響

橘歌一首　大伴家持

吾屋前之花橘乃何時毛
珠貫倍久其実成奈武

晩蟬歌一首　大伴家持

隠居者鬱悒奈具左武登
出立聞者来鳴日暁

二首　大伴書持

我屋戸尓月押照有霍公鳥
心有今夜来鳴令響

我屋戸乃花橘尓霍公鳥
今社鳴来友尓相流時

まりやと乃花橘を
橘を郭公のなく
てあや一declare我とな
こゝろ橘咲てあるら
しと
みる人乃まちつゝむ
ものゆゑ神代もちる
いでゝ我ゆく郭公
鳥ゆゑと一declare賀人
ハゝもと待我ゆゑ
ものちるこゝろもし
ら玉と郭公雖鳥こゑ
わがせこやこの橘を
かれよくゝ子規もま
けハへうきつゝと
ほとゝきすゝ

一首　大伴清綱（キヨツナ）

皆（入之）待　師宇能花　雖落
みる人乃まちつゝむ花ゆゑと一declare
奈久　霍公鳥　吾　将一忘　哉
なくほとゝきすわれ忘れめや

一首　奄君諸立（イナリノキミモロタツ）

吾　背子之屋戸乃　橘　花乎　令見
わがせこやとの橘を
鳴　霍公鳥　見　賞　吾　来之
なくほとゝきすゆめわれこし

一首　大伴坂上郎女

霍公鳥　痛　莫鳴
ほとゝきすいたくなきそ
寐乃　不一所一宿　聞者　苦毛
いねがてにわれ聞ものを

唐棣花（ハネズノ）歌一首

心明し拾遺集よ
おつまけてさきつゝ
唐棣　論語註ニ郁李也
日本紀ニ朱花ハ子スヽ
よりも前ニ有ゆゑ
けてハ夏を待ずし
てしゐのいなさをも
わがやどのそをもる
恨心ゝく言ふり
かとゝきすおもへす
ゝゝしこのし
をいたゞきかゝ
ゝるまでまつ
んこハゝはかり
こゝろぬるゝ

夏　儲　而　開　有　波祢受久方乃
雨　打　零者　将一移　香
おつまけてさきつゝ
あめうちふらゝハうつろひなん

恨（ウラミ）霍公鳥晩唱（オソクナクヲ）歌二首

大伴家持

吾　屋前之　花　橘　乎　霍公鳥
わがやどのをなつかしみ
来　不一喧　地　亦　令一落
きなかてにちらしてなん

霍　公鳥　有　木晩乃
かとゝきすおもへすゝゝき
如此　成　左右　亦　奈何
くるまてまつうをこと
ゝきすなきつるかも

懽（ヨロコブ）霍公鳥歌一首

大伴家持

何處者鴈鳴毛思仁來武霍公鳥
いつこかいまもきなくん
いつこかいまもきなくん
吾家乃里介今日耳曽鳴
わきへのさとにけふのみそなく

惜橘花歌一首 大伴家持

吾屋前之花橘者落過而
わきもこがそのふるたちばなはちりすぎて
珠介可貫実介成二家利
こだまにぬくみなりにけるかも

霍公鳥歌一首 大伴家持

霍公鳥雖待不來喧
ほととぎすまてどきなかずあやめぐさ
玉介貫日乎未遠美香
たまにぬくひをいまだとおみかも

雨日聞霍公鳥喧歌一首

大伴家持

宇乃花能過
うのはなのすぎ
雨間毛不置
あまもおかず
従此間喧
ここにしばなく
渡
わたる

橘歌一首 遊行女婦

者惜香霍公鳥
をしかはかほととぎす
君家乃花橘
きみがやのはなたちばな
成介家利
なりにけらしも
有時介益物乎
ときにますものを

橘歌一首 大伴村上

吾屋前乃花橘
わがやどのはなたちばな
来鳴
きなく
令動而本介
もとにゆすりて
令散都
ちらしつ

霍公鳥歌二首 大伴家持

也部乃内乎喚
やべのうちをよび
喧
なく
霍公鳥
ほととぎす
者
は

也部乃内乎喚
やべのうちをよび
喧霍公鳥
なくほととぎす
者
は

夏山之木末乃繁(イトヨク)尓霍公鳥
夜山乃許志(こし)能(の)阿(あ)多(た)礼(れ)尓波(は)良(ら)久(く)伎(き)須
鳴響(なきとよむ)奈流(なる)声(こえ)之(の)遥(はるけ)伎(き)
安(あ)麻(ま)多(た)流(る)可(か)聞(も)
足引乃(あしひきの)許(こ)礼(れ)乎(を)波(は)許(こ)等(と)尓(に)
許(こ)己(こ)呂(ろ)由(ゆ)多(た)尓(に)
許(こ)己(こ)呂(ろ)由(ゆ)多(た)尓(に)
許(こ)己(こ)呂(ろ)由(ゆ)多(た)尓(に)

許(こ)己(こ)呂(ろ)由(ゆ)多(た)尓(に)

夏山之木末乃繁(イトヨク)尓霍公鳥
夜山乃許志(こし)能(の)阿(あ)多(た)礼(れ)尓波(は)良(ら)久(く)伎(き)須
鳴響(なきとよむ)奈流(なる)声(こえ)之(の)遥(はるけ)伎(き)
安(あ)麻(ま)多(た)流(る)可(か)聞(も)

足引乃(あしひきの)許(こ)礼(れ)乎(を)波(は)許(こ)等(と)尓(に)
許(こ)己(こ)呂(ろ)由(ゆ)多(た)尓(に)
許(こ)己(こ)呂(ろ)由(ゆ)多(た)尓(に)
許(こ)己(こ)呂(ろ)由(ゆ)多(た)尓(に)

許(こ)己(こ)呂(ろ)由(ゆ)多(た)尓(に)

右(みぎ)一首(ひとうた)大伴家持(おほとものやかもち)

吾(わ)屋前(やど)之(の)瞿麦(なでしこ)乃(の)花(はな)盛(さかり)有(あ)
手折(たをり)而(て)一目(ひとめ)令見(みせ)児毛(こも)我母(あも)

惜(あたら)不(ず)登(と)筑波山歌一首

高橋連蟲麻呂(たかはしのむらじむしまろ)

筑(つく)波(ば)根(ね)尓(に)吾(わ)行(ゆき)利(かり)世波(せば)霍公鳥(ほととぎす)

大伴坂上郎女

一首

夏野乃繁見丹開流姫由理乃
花物有香聞流君之不来者

一首

霍公鳥哭乃上乃卯花之
厭毛君之来座奴礼婆

大伴坂上郎女

一首

五月之花橘乎為君
玉貫流妹尓波不如

一首

暇無五月乎尚哭尓吾妹兄我
花橘乎不成可将散

大伴坂上郎女

一首

吾妹子之家乃垣内乃石竹花
幾毛開而有香問国

一首

高安
尚哭尓吾妹兄我
由利也
不歌云二似

大伴坂上郎女

贈大伴家持歌一首

大神女郎

霍公鳥哭之
将来鳴
妹坂上大嬢歌一首

大伴田村大嬢

加口之 奈良思乃 岳能霍公鳥
山乃佐久良乃 何如 告 遣之
言 告 ス八
宇礼多伎也 志許霍公鳥 暁乃
尚 來鳴而
伊加登伊可等 有 吾屋前尓 百枝刺
於布流橘 玉尓 貫 五月 平 待
安要奴我尓 花咲 尓家里 朝尓 食尓
出礼 氣緒尓 吾 念妹尓
銅鏡 清 月 夜尓 直一眼
令覩麻而尓波 許須奈 由米登 云
乎加 地尓 令散者 為便 平奈美
攀而 手折 都刀 見未世 吾妹児
令親 常 念 之 屋前之橘
十六七枚の散るとき

あえぬかも 仙曰我背
吾中 物
管 裳許
守礼多伎也 志許霍公鳥 暁乃
程 悲 尓 雖追 ㄙㄨ
従 地尓 令散者 為便 平奈美
攀而 手折 都刀 見未世 吾妹児
令親 常 念 之 屋前之橘
十六七枚の散るとき

あえぬかも 仙曰我背
あえぬかも 仙曰我背
あえぬかも 仙曰我背
あえぬかも 仙曰我背
あえぬかも 仙曰我背
あえぬかも 仙曰我背
あえぬかも 仙曰我背
あえぬかも 仙曰我背

妹之見而後毛 将鳴 霍公鳥
いちしろくなくのちもなほ 郭公
花橘 キ 地尓落
をちこちなきてちりまがふ

贈二紀女郎一歌一首

大伴家持

曜麻者咲而落去常人者雖言
吾標之野乃芽子尓有目八方

秋雑歌

御製一首

岡本天皇

暮去者小倉乃山尓鳴鹿之
今夜波不鳴寐宿家良思母

御歌一首

大津皇子

経毛無緯毛不定未通女等之
織之黄葉尓霜莫零

もうせてこころ
ゆされいさそくの
小金山山陰ク名れ
ハとハをそとてけて
白き羽ク名ふそ
必あもしやけるも

そしもあくねまも
風紙天筆畫雲竜山機雲梓織葉錦
風雅をも仙日や作る
こんすかけのりもしやすもむ一家好
浄すかく紀女郎ろうもれ挽茶関雑山の浄乃れ
いろつちるとをかりあをを偽浄といつるそをおそし四
葉あをを浄とつる奇いそく小引るつす黄葉をみやと
和とる長乃例おのもしまれ
いあおりうまれとはをまそやれんとをとめろをけるし

御歌二首　穂積皇子

今朝之旦　明雁之鳴聞都　春日山
ホヅミノ
　　けさのあさけ雁金
心いたしも　秋萩を
　　徒に散しつるかも
　　黄葉　家良思　吾情　痛之
　　秋　草者可咲　有良之　吾屋戸之
秋萩は咲ぬ
　　浅芽之花　乃　散　去　見者
あさもよし　あさもよしきぬ
　　あさもよしきぬ
あさもよしきぬ　あさもよしきぬ

御歌一首　但馬皇子

事繁　里　尓　乃住者　今朝鳴之
　　こことつげこそ
　　國　尓　不有者
一云　不有者

雁　尓　副　而　去益　物　乎
　　かりてゆくらし
惜二秋葉一歌二首　山部王
　　秋山　尓　黄反　未　染　乃　移　去　者
あさ山よもいまだこのもれうつろへる
　　更　栽　秋　乎　欲見　かりてゆくらし
さ夜ふけて　世武
　　長屋王
味酒　三輪　乃　祝　我　斎　来　之　乃　山　照
うまさけ　みわの　はふり　が　いはひこし　の山
秋　乃　黄　葉　散　莫　惜　毛
秋の黄葉　ちるなをしみも

七夕歌十二首　山上臣憶良

天　漢　相　向　立　而　向一河
あまの川　こと　むかひたちて　一云にのぼりて　向
吾　戀　之　君　来益　奈利　紙
わが恋ひし　きみ　きますなり

童麦　秋之　山葉　乃　黄　時　雨
わらび　あきの　やま　は　の　もみち　しぐれ

解説奈 きぬのをきそやもちいちさけのこのみのとひうきけのみのくりのみをもちへてきこりちさけのとい味いりる酒といひうきけのこハむまき酒といつる肯酒といつる肯いうもしく酒とよみをまきくみをうもみろうけるハ酒のりハみのあまいハ若いくるもをもちそうとハいふなれハあろさけうまきけをもちむりふ成ん子みをよまんてすまきまきくこころうちうち山路をこハ社部ら行する山と路をとい倶童茨初三ケ月ハやろ乃山てすとしてハ月ハ味酒ケ月ハくる行おを送ハれうくこむろいハ立て一云にりむりしくこむろしハ相向之と山ハ今ハ七夕乃ハり風てよりり紐とさくかけるとい紐解さけん注養老八年ハ元正帝乃等年ちおく山年乃二月ハ武帝受禅九月ハ即位と紀運添よを應ス令ニこハ今この今ハ此令にもりての心

久方之天漢瀬介舩泊而
今夜可君之我許来益武
神亀元年七月七日夜庚大臣宅作之

ふてきこりあれハ明ハ不安云わりさきくんハ我こくへさきくんとなりをもしもセクの日りをりてよりり泊神亀元年ハ則養老八年ニおりうこと同日おりてハ此令ハ元ハ此令ハ直しハ今ハ大臣家

牽牛者織女等天地之神物云いおうこうをも稲荷也とりろうろこころしハ今ハ稲荷ハ仏にりてそうすいうをりり乃芸ハ稲荷ハ仏ニおもハ又云川のよ落とハ云まの乃落ちをきてりおそうをの稲荷をきてとハ芸ハれ稲荷ハ仏

時由伊奈宇之呂河別立向意空不安嘆久尓空不安久尓青浪尓望者多要奴白雲尓清者盡如是耳也伊伎都枳平良牟如是耳也依卅塗之小舩賀茂玉纏之真可伊毛我毛何毛朝左佐礼尓非毛何毛

癒都追安良牟

1521

つくる也 童蒙抄 袖中抄 顕昭口訣
あを涙にかへてしね
蒼波 たゝみにみえや
てとりひきかへて
いきつき 嘆息する也
さかねりのさはね
はけのうか母のを
玉まきれぬかのかとを
又安云 玉まきてうつ
らきるいものかはる也
いつきわたり 伊ハ助字 伊
揖渡也 いこき渡り
い助字之 漕渡まて
あまとふやひれかしけ
領巾 女乃肩にかけ
たる也 天衣也 心ゑかく 天飛やとりを衣裾なと云也

伊可伎渡 久盬尓 一云 夕倍尓毛
いかきわたり ゆふしほに 一云 ゆふへにも
伊許藝渡 方之 天河原尓
いこきわたらむ ひさかたの あまのかはらに
天飛也 領巾可多思吉 真玉手乃
あまとふや ひれかたしき またまての
玉手指更 餘宿毛寐而師可聞 秋尓
たまてさしかへ あまたよも いねてしかも あきに
安良受登母 一云 伊毛尤祢而師加 秋不待登毛
あらすとも 一云 あきまたすとも

反歌

風雲者二岸尓可欲倍杼母
かせくもは ふたつのきしに かよへとも
吾遠嬬之 一云 波之嬬乃
わかとほつまの 一云 はしつまの
事曽不通
ことそかよはぬ

1522

またまての玉手さしかへ 真玉手ハ詩に玉臂なと作れる同意也
うるはしき也 まハ助字也 まへてゐをかはねぬ 玉手さしかへハ指かへ
あまたよもねてしかも 秋にあらすとも また夜もねなむ
かせ雲ハふたつのきしにかよへとも
ことハかよはぬとなけく也
きしにかよへとも 仙田にハ
てとハ流れて 香覚

多夫手二毛 投越都倍伎 天漢
たふてにも なけこしつへき あまのかは
敝太而礼婆可母 安麻多須辨奈吉
へたてれはかも あまたすへなき

1523

押紙云文選第二東京賦
飛礫雨散 たふてとよめり
てとハ本説分明也
つふてハ礫也

天平元年七月七日夜仰観天河作
秋風之 吹尓之日従 何時可登
あきかせの ふきにしひより いつしかと
吾待恋之 君曽来座流
わかまちこひし きみそきませる

1524

こすハ近けれと中にへたつ
これハなや遠隔自由なる

天漢 伊刀河浪者 多多祢杼母
あまのかは いとかはなみは たゝねとも
伺候難之 近此瀬呼
さもらひかたし ちかきこのせを

1525

らすまとへもと
秋かせのふきにし日より
七夕に云そへし也

袖振者 見毛可波之都倍久 雖近
そてふらは みもかはしつへく ちかけれと

度為便無秋西安良祢波
わかるすべなくあまたたび
玉蜻蜓髣髴所見而別去者
かけるものかなにしかもとこしへに
毛等奈也戀牟相時麻而者
あるべくもあらぬこの心
天平二年七月八日夜帥家集會

神さびて古りにし里の秋萩は
つゆぞもみちにける鴈が来鳴く
奉牛之迎嬬舩已漕出良之
いこぐなる堀江をさして我妹子が
漢原介霧之立波
家のあたりか霧の立てる
霞立天河原尓待君登
伊往還裡尓障浦舟
いさりせしらに灯ともしつつ
天河淳津之浪音佐和久奈利
あまのいさりせしらに灯ともしつつ

吾待君思毛出為良之
わがまつきみし思ひも出らし
太宰諸卿大夫并官人等宴筑
前國蘆城驛家歌二首
作者未詳
娘部思秋芽子交蘆城野
をみなへし秋萩まじり蘆城野の
今日平始而萬代尓将見
今日のみ見てや萬代をへむ
珠匣蓋木河平今日見者
玉くしげ蓋なきかはる今日見ては
逆萬代将忘八方
いや萬代に忘れめやも
伊香山作歌二首
笠朝臣金村

草枕旅行人毛往觸者
草まくら旅ゆく人をとりおれて
令保比奴倍久毛 用流芽子香囲
かゝりぬべくさける萩かな

伊香山野邊尓用有芽子見者
いかこ山のへなる萩を見るときは
公之家有尾花之所念
きみのやとなるおもほゆるかも

一首 石川朝臣老支
娘部志秋芽子折礼王鉾乃
をみなへし秋萩をれ玉ほこの
道去裳師酒乎兒
みちゆきもしらこをとめ

一首 藤原宇合卿
我背兒乎何時曽今登待苗尓
わがせこをいつそいまかとまつなへに
於毛也者將見秋風吹
おもやはみえん秋の風ふく

五八丁三

草枕旅行人毛往觸者
草まくら旅ゆく人をとりおれて
令保比奴倍久毛 流芽子香囲
かゝりぬべくさける萩かな

伊香山野邊尓用有芽子見者
いかこ山のへなる萩を見るときは
公之家有尾花之所念
きみのやとなるおもほゆるかも

一首 石川朝臣老支
娘部志秋芽子折礼王鉾乃
をみなへし秋萩をれ玉ほこの
道去裳師酒乎兒
みちゆきもしらこをとめ

一首 藤原宇合卿
我背兒乎何時曽今登待苗尓
わがせこをいつそいまかとまつなへに
於毛也者將見秋風吹
おもやはみえん秋の風ふく

まくらたびゆくひとをとりおれて
なでしこかはなさきにけるかも
しもがれぬねもとのあきの
風ふくごとにおもほゆるかも
一二句ハ隠れ野をいへん
ほどの序なり
隠野ハ八雲御抄に
こゝに萩ちるまでハおほく
萩をよめりとあきのふくさきさく
げに決方ハ花序
のやうにおぼゆるなり
さき乃花をそ
いひそへ旋頭歌

一首
暮ゝ相而朝面羞隠野乃
よるよりのちにあひてあさおもてはづかしかくれ野の
芽子者數手折而令見妹
はぎはかずたをりてもみせいもに

詠秋野花歌二首

山上臣憶良
秋野尓咲有花乎指折
あきのゝにさきたる花をてをりて
可伎數者七種花
かきかぞふれば七種の花
芽之花辛荷葛花瞿麥之花
はぎの花をばなくずはなをみなへしまた藤ばかまあさがほの花
姫部志又藤袴朝貌之花
をみなへしまたふぢばかまあさがほの花

二首

天皇御製